

## 第 1 回安曇野市消防委員会 会議概要

- 1 審議会名 安曇野市消防委員会
- 2 日 時 平成 21 年 6 月 23 日 午後 7 時 00 分から午後 8 時 35 分まで
- 3 会 場 堀金総合支所 第 303 委員会室
- 4 出 席 者 宮下 勝委員長、笠井郁男委員、中野博夫委員、横内好幸委員、小林光男委員  
島山忠幸委員、塚田茂利委員、丸山重隆委員、水上 洋委員、帯刀 隆委員  
櫻井貞文委員 丸山一雄委員
- 5 市側出席者 危機管理室長、消防防災係長、下里主査、中澤主査
- 6 公開・非公開の別 公 開
- 7 傍聴人 0 人 記者 0 人
- 8 会議概要作成年月日 平成 21 年 7 月 6 日

## 協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
- 1 開 会
  - 2 委員長あいさつ
    - ・危機管理室職員紹介
  - 3 会議事項
    - (1) 分団長の選出方法及び標準年齢制定について
    - (2) 退団年齢の引上げについて
    - (3) 団員定数の見直しについて
    - (4) その他
  - 8 閉 会
- 2 審議概要
- (1) 分団長の選出方法及び標準年齢制定について
  - (2) 退団年齢の引き上げについて
  - (3) 団員定数の見直しについて
- (1)～(3)を古幡係長がまとめて詳細を説明
- ・現在の分団長選出方法については、豊科・穂高方面隊が団員からの昇格、明科・堀金・三郷方面隊は OB（消防団経験者）が分団長となっている。
  - ・分団長の年齢については、54 歳から 33 歳まで 21 歳年齢差がある。
  - ・退団年齢の引上げについては、現在の年齢構成を考えると 40 歳位が妥当ではないか。
  - ・団員の定数については、慎重に考えていく
  - ・分団長たちに以上の項目についてアンケート（7 月 10 日締切）を配布してある。
- 分団長の選出方法及び標準年齢制定・退団連例の引上げについて
- 小林委員 団のまとめ約としても年齢を 40 歳くらいに上げた方が良くと思う。現役が辞めることにより団員が減少していく。
- 丸山団長 6 月 17 日・18 日に連日で会議を行い協議をした。5 つの方面隊で退団する形態が違う。分団長を団外・団内ということは消防委員の皆さんからご意見をいただくとして、退団年齢を 40 歳くらいまで引き上げればある程度、分団長の選出方法も見えてくるのではないかと。現在は団員確保という面はあまり考えていないが、結果的に団員確保に繋がれば良いと思う。
- 塚田委員 分団長の選出方法で団外から分団長ということになると組織を束ねることが難しい気がする。
- 丸山団長 現実的には上手くいっているところがある。穂高地区のように現役から分団長まで上がると団歴は長くなる。豊科・堀金地区は団歴が短く経験が浅いため年齢を上げていければ。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2 週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

- 中野委員 団員確保も大きな問題だと思う。
- 小林委員 入団当時は年に1・2回の出席だったと思うが、幹部になるにつれ消防団の責任というものが分かってきた。若い団員をいかに引き寄せるか、また消防団員としてどう教育していくかが、重要ではないか。
- 中野委員 豊科は、団員の確保が出来ているのは、退団年齢が低いおかげである。団員の中では消防は35歳までという考えがあり、豊科として昔から築き上げてきたので40歳までとした場合は弊害が出るような気がする。
- 丸山団長 安曇野市は他地区からの転入者が多く、特に豊科・穂高・堀金地区については30歳代前半くらいで新築等により転入する方がいる。35歳で退団ということであれば入団もできないが、40歳までということであれば、転入者も入団できることになる。そうなればまた違った消防団組織が出来るのではないかとという点では上げというのはいつのメリットがあると考えています。
- 横内委員 アンケートについては、どのようなことを？
- 古幡係長 アンケートについては、年齢を引き上げることへのメリット・デメリット、分団長の選出について団外・団内のメリット・デメリットというようなものです。
- 笠井委員 団外からということになると、空白の時間があり戸惑うことがあると思うが・・・  
今の消防団員が一番動きやすい年齢が何歳くらいなのかということを考える。また、他の消防団であったが47歳で心筋梗塞という例もあるので、一概に年齢を引き上げることについては不安がある。
- 櫻井委員 合併後、何十年も経っている松本市や塩尻市を例にとっても、未だに分団長の選出については、団外からの所と団内からの所とありその形が変わらないのは、地域性があるのだと思います。  
最終的には、それぞれの部長さんたちがその地域の一番あった方法で選出が出来れば良いのでは。また、年齢構成については、経験年数を最低でも団員は10年、班長を2年というようにすれば良いのではないか。
- 丸山委員 年齢は概ね40歳くらいとして地域性を考慮しつつ改革をしていけば良いのでは。あまり決めすぎてしまうと支障が出てくるのでは。
- 宮下委員長 年齢については、40歳位ということで行きたいと思います。団員の定数については、慎重に考えていくため、今回は手を付けずに今後検討していく。

#### ○分団長の任期について

- 丸山団長 方面隊長がなくなり、分団長が方面隊長の仕事をやらなければならないが、分団長の任期が1年で良いかという中で、団幹部としては地区等の事情があるのでその事情に応じて将来的には2年してはどうかという意向。
- 笠井委員 ボランティアでやっている人間に分団長を2年というのは酷だと思う。
- 塚田委員 団全体がそういう考えなら良いのではないか。
- 小林委員 現段階では、幹部の団長・副団長が2年となっており、団の主軸となる分団長も2年というのが望ましいのでは。
- 水上委員 筆頭制の分団長になることについては？
- 丸山団長 筆頭制については、各方面隊の分団長の中で持ち回っても良い。筆頭の分団長が副団長にあがらなければならないということは全く関係ない。あくまでも各方面隊内の連絡員や会議のまとめ役という役割と考えている。
- 宮下委員長 委員会としては、地域性があるのですぐには行かないが、2年という方向で進めてほしい。

○ その他について

- ・今後の消防委員会会議スケジュールについて（古幡係長より説明）
- ・松本消防協会ポンプ操法・ラッパ吹奏大会について（中澤より説明）

中野委員より確認事項

今後の幹部は今までの正副団長は退団し、新しい副団長を選出し、その中から団長を選出するという  
ことですか。

古幡係長 各地区から1名を選出し、その中から団長1名、副団長を4名を決定する。

中野委員 現在の正副団長が退団すると、副団長の経験がなく団長に昇格する場合がある。また、現在の  
正副団長のうち1名が団長になるとその地区の方面隊長は退団をしなければならない。

丸山団長 幹部の中で団長を決めておいて副団長候補に上げていく。現在は方面隊長がいるので、正副  
団長の中から団長をとという方がいれば、その地区の方面隊長は辞めざるを得ないということ  
になるので、今後、団幹部の中で検討していく。

高橋室長 そこが一番大事なところですので、現幹部の中で次年度の団長を決めておいて、その中で副  
団長をとという形を出していく。

丸山団長 22年度からは方面隊長は廃止するという方向になっているため、現在の方面隊長は自分が  
上がるか、退団するかは認識している。方面隊長として残ることは無いので、残るとすれば  
副団長ということになる。団幹部の中では確認が取れている。

宮下委員長 次期については、団長を先に選出しておいて、その後副団長を決めるということによろしい  
か。 → 全員一致で了承。

○ 会議終了後、堀金総合支所南側職員駐車場において音楽喇叭隊の激励を行う。